



牛丸 尋幸 議員

持続可能な地域づくりを

問 持続可能な地域づくりに成功しつつある自治体の例を学び、地域ごとの取り組みを具体化するべきでは。

答 住民とともに、地域が将来どのようなまちを目指すのか、そのためにどのような方策が必要なのかについて話し合い、その具現化に努める。

問 地域交通や地域経済について、専門家の知見を活用すべきでは。

答 地域交通については、市民や学識経験者の意見を聞きながら見直しを行いいたい。今のコミュニティバスによる公共交通が最良の方法だとは認識している訳ではなく、他にいい方法があればぜひ検討したい。また、地域の様々な課題の解決に向けて、

持続的な経済の発展に向けて、専門家の知見の活用を進めたい。

問 若者・高校生などの声を大切にしている取り組みが必要では。

答 学校や地域の団体と協調して、地域づくりへの若者の参加の機会を増やしたい。

問 高校生のバス通学費などの負担軽減のための支援策が必要では。

答 支援のあり方について検討している。

問 後継者がいない事業者と移住希望者を結びつける取り組みが必要では。

答 現在行われている実態調査の結果を踏まえて、事業承継と移住希望者を結びつけるような取り組みについても、関係機関と連携して研究したい。



沼津 光夫 議員

乗鞍山麓五色ヶ原の森と乗鞍スカイライナーの更なる活用の

乗鞍山麓五色ヶ原の森について

問 新ルート整備の進捗状況は。

答 山小屋建設・歩道整備工事、管理用及び緊急時用道路整備は発注済みである。また、山小屋建設工事は、3回にわたり入札が不調となった。

問 年々減少する入山者の対応をどう考えているか。また、五色ヶ原の森を活用した小中学生を対象とした自然環境学習の実施状況は。

答 国、県、事業者、地域と連携を図りながら中部山岳国立公園の活性化の動きを高めつつ、飛騨山脈ジオパーク構想を推進していく中で、利用状況の改善に努める。また五色ヶ原の森

を自然環境学習の拠点となる森と位置づけしており、引き続き五色ヶ原の森で自然環境学習を実施することで自然に対する理解を深め、地域を守り育てていく人づくりに取り組む。

乗鞍スカイラインの利用のあり方について

問 乗鞍自動車利用適正化協議会の目標入山者数は20万人と定めているが、今年度は約10万人である。マイカー規制は必要なのか。

答 自然環境保全を基本としながらも、乗鞍岳を含む持続可能な地域づくりにつながるため、マイカー規制のあり方に関する議論を、協議会が進めていく必要があると考える。



榎 隆司 議員

教育環境・子育て支援・若者支援について

ICTの取り組みについて

問 次期学習指導要領に向け、電子黒板等のICTの取り組みが必要では。

答 電子黒板やデジタル教材を使用することにより対話的で深い学びのある授業を進めることができ、質の高い理解を図ることができるため、導入について検討をすすめている。

若者支援金制度の創設について

問 将来の夢につながる若者の夢や挑戦等に対して「若者チャレンジ支援金」制度を創設する考えは。

答 若者が夢を実現するために積極的に「こんなことをしたい、こんなことをしたい、こんなことをしたい」とい

なまちなしたい」と自ら行動することは、人づくりやまちづくりに大変重要なことであり、市としても若者支援に積極的に取り組む考えであり、まずは参加の機会や仕組みづくりに取り組むこととして創設は考えていない。若者が参加しやすい環境となるよう、例えば、活動を評価することで学生の学業や進路にプラスになるような仕組みづくり等について学校や関係機関と協議をしていきたい。

電子母子手帳について

問 電子母子手帳を導入する考えは。

答 通信料負担の問題もあるが導入に向けて検討する。